

分野：⑫消費生活・衣食住

プラスチックとくらし

環境アドバイザー

関川忠彦

対象 行田市立太田東小学校5年1組（13人）

所要時間  1時間

場所 校舎内 図書室

実施時期 令和2年11月11日

概要

- 1 プラスチックは余りに身近過ぎて、生活や家庭での知見しかない。
- 2 便利な材料・製品であるのに、なぜプラごみが問題になるのかを学習する。プラスチックの性質と特長を知り、プラごみと3R活動に注目させる。
- 3 知らないことを知った喜びと感じて考えることの楽しさを習得させる。

プログラムの ねらい

プラスチックの特徴がゴミ問題になっていることを、知って考える。
身近過ぎテーマなので、まず特徴とゴミ情報を知り、問題を認識する。
プラスチックを使う限りは、プラごみ問題で私たちができることを考える。
3Rの考えを進めて、自分でできる問題解決の行動に着手させたい。

プログラムの内容

1 イン트로（5分）

便利なプラスチックが大量にゴミとなり、動物たちの問題写真で興味と注目を集める

2 本題（35分）

- 2.1 プラスチックは人間が開発した素晴らしい材料である
- 2.2 その製品の長所と短所を知る。 その原料は石油である事も。
- 2.3 便利な材料、製品として大量に作られ、そしてほとんどが廃棄されて地上に溜まっている。
- 2.4 家庭から出るごみの中で、プラスチックが増えている
- 2.5 増加しているプラごみの一部が海に流れ、いろいろな問題が世界中で発生し始めた
- 2.6 この廃プラに対して、私たちにできることは
- 2.7 廃プラの中でリサイクルが進んでいるPET ボトルで、プラごみを考える
PET ボトルの特長や製法・リサイクルなどを「だいすきPET ボトル」資料で復習へ
キャップ、ラベル付きのPET ボトルを持参させ、クイズとPET ボトルは浮くか？など

3 まとめ（5分）

- 3.1 素晴らしいこの素材の特長は、ゴミになると大きな問題にもなっている
- 3.2 私たちはできることからやる。 まず3Rを考え行動する
- 3.3 海洋プラごみは、川からの生活系のごみが多い。 川に捨てない流さないを守ろう。

受講者の反応

1 担任先生より

- 1.1 児童が身近に感じられるプラスチックの話で、分かり易かった。
- 1.2 難易性、量共に適切で良いものだった。
- 1.3 具体物を提示しながら説明し、一人一人に語り掛けるように話されたので、子供たちは集中して聞いていた。
- 1.4 子供たちは、プラごみの問題は大変なので、3Rでできることをやらねばと思ったようだ。

2 講師の感想

- 2.1 子供たちは、身近な対象について画像講義のためか、楽しみ理解できたようだ。
- 2.2 学習内容の画面は、担任に一式渡してあるので、後日のQAや復習に役立つとのこと
- 2.3 PETボトルについては、別途のわかりやすい資料を提供した。

環境学習の様子（写真）



環境学習 行田市太田東小学校 2020.11.11

プラスチックと私たちの暮らし プラごみから考える！ (第4版)



- 1 プラスチック
- 2 プラごみ
- 3 マイクロプラスチック
- 4 3R
- 5 PETボトル
- 6 クイズとまとめ

中央アメリカ・コスタリカ沖

行田環境市民フォーラム
関川忠彦